

日本語能力試験の
試験問題を作成する
研究員を募集します

日本語能力試験 研究員募集

募集人数

「文字・語彙」「文法」「読解」「聴解」各担当分野でそれぞれ若干名

応募資格

【必須条件】

日本語教育もしくは周辺領域（日本語学、言語学など）の専門性を有し、修士号を取得した者（応募時点で修了見込みの者も応募可）

【歓迎条件】

- (1) 日本語教育機関（大学、日本語学校など）で3年以上の日本語教授経験を有する者（海外で日本語教育に従事した経験があればさらに望ましい）
- (2) 日本語教育における教材作成、テスト作成（担当コースの教材、テストを含む）の経験を一定程度有する者
- (3) 言語能力測定に関する専門性を有する者

契約開始日及び契約期間

【契約開始日】 2027年4月1日 ※相談に応じます。

【契約期間】 契約開始日より原則1年間

※任期中の勤務状況等を評価の上、最長通算5年の範囲内で契約更新を検討します。

※研究員（任期定めなし）の公募を行う場合があります。その場合、契約期間中に応募が可能です。

応募方法

国際交流基金ウェブサイト【採用情報】の募集案内をご覧ください。

募集要領HP▶ https://www.jpf.go.jp/j/about/recruit/jlpt_261019.html

検索



採用説明会

【開催日】 2026年9月10日【木】 18時30分よりオンラインで開催

【内容】・ 国際交流基金の概要紹介
・ 日本語能力試験の概要紹介
・ 研究員業務の説明 ※予定

【参加方法】 氏名、ご所属及び連絡先を明記の上、
js_saiyo@jpf.go.jp 宛に、
9月10日（木）15時までにE-mailでお申し込みください。

お問い合わせ

国際交流基金（JF）日本語試験センター 研究員採用担当
TEL:03-5367-1021
<お問い合わせはメールにてお送りください> E-mail:js_saiyo@jpf.go.jp

試験作成はアート&サイエンス

■ 日本語能力試験

1984年に始まった日本語能力試験は、2009年からは年2回実施されるようになり、2010年の改定以降、N1～N5の5つのレベルで行われています。2025年は、国内外計320都市（海外92の国・地域、273都市）で実施され、年間応募者数は過去最多となる194万人となりました。試験結果は進学、就職、職場での昇進などに使われることも多い大規模試験です。この日本語能力試験の問題作成、採点、分析、海外での実施を行っているのが、日本語試験センターです。



試験実施風景（メキシコ・アグアスカリエンテス）

■ 試験作成と作題担当研究員

試験作成には複数の専門家による作題と検討のプロセスがあります。そこで中心的な役割を果たすのが日本語試験センターの作題担当研究員です。試験作成は問題の素案作成からスタートします。素案作成を外部の専門家が担当した場合、研究員は素案作成のための資料を提供したり、必要に応じてアドバイスをしたりもします。素案は宝石に例えるなら原石で、原石を研磨していくのが、問題検討と修正のプロセスになります。専門家とともに行う検討作業では、その問題が測ろうとしている言語能力の明確化、難易度の適切さ、実生活に即した問題になっているか、言語外の知識が解答を左右しないかなど、多くの検討項目に対する検討・修正が行われます。このプロセスを複数回行うことで、質の高い試験問題が作られていきます。このプロセスは膨大な時間をかけて行われており、専門的な理論、教育現場で培われた経験によって支えられています。検討会議では、専門家の知見を十分に引き出し、完成に向けて進めていくのも研究員の仕事になります。



受付で列に並び受験者たち（サンパウロ）

■ 得られるもの・求められるもの

試験作成は教育現場の延長線上にあります。多くの専門家とかわりながら仕事を進めていく中で、教室内では得ることのできない、新しい分野の知識も広がっていきます。専門性とともに、問題を検討・修正する際の柔軟さや判断力、内部・外部の関係者とのやりとりを円滑に進めるコミュニケーション力なども求められます。試験作成はアート&サイエンスという人もいます。

アートは緻密かつ魅力ある問題を追及する職人技、サイエンスは理論を知り、コーパスなどの言語資料を使いこなし、結果数値を解釈する技量、その両方を私たちは求め続けています。

試験作成は、試験を通して日本語教育に貢献することのできる意義のある仕事です。